

大阪新聞

い私の手許に日中国交一周年を特集した二つの新聞記事がある。いずれも中国とアジア諸国との関係を解説したもののだが、P紙の紙面には五段の書きで「対中正常化緩々」と見出しが入っており、Q紙の方は「対中和解へ歩む」と交流強めるアジア諸国」と四段の書きで見出しがついている。

このように記

アジアと中国と
近くて遠い関係

中国情報

中嶋嶺雄

大使
交換

18カ国中3カ国だけ

ので、私たちはつい報道の魔術にかかってしまい、米中接近、日中国交についてアジア諸国も次々に中国と国交を樹立し、中国はそうしてアジア諸国と打って一丸となって世界に挑戦しているかのやうな錯覚に陥りかけてしまつた。

事や解説が正確し、それが繰り返し、それが繰り返される返し報じられるで実は日本および植民地である香港、マカオを除いて十八カ国にもほって

ドネシアは、国交断絶のままでし、インドは代理大使のままである。シヤヌークは亡命政権、九・三〇クーデター、中印紛争こそそれぞれ手痛い傷があつたのである。

このように記

呼ぶことにする。これら諸国とはインド、スリランカ、モルディブ、ネパール、ブータン、シヤム、バングラデシュ、ビルマ、タイ、ラオス、カンボジア、南ベトナム、マレー

現にこれら十八カ国のうち、昨年九月の日中国交樹立以降、中国とあらたに国交を結んだ国は、インド洋上の島嶼島、モルディブ二カ国しかない。これら十八カ国のうちすでに中国を承認している国は八カ国、うち中国との国交が従来から正常な状態にあるのはネパールとスリランカのみ。北京と相手国の双方に正式な大使が交換されて大使館があるのは、現在、ネパール、スリランカ、ビルマの三カ国にしかすぎない。カンボジア、イン

（東京外大助教）